

令和2年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題
歴史〔日本史〕解答例

1

- 問1 富本銭
- 問2 蓄銭叙位令（法）
- 問3 （ウ）村上 （エ）乾元大宝
- 問4 檜皮（桧皮）
- 問5 大和絵
- 問6 物忌
- 問7 蒔絵
- 問8 陰陽道
- 問9 方違
- 問10 日親
- 問11 延暦寺
- 問12 題目
- 問13 嘉吉の変（乱）
- 問14 尚巴志
- 問15 首里
- 問16 謝恩使
- 問17 調所広郷
- 問18 本居宣長
- 問19 塙保己一
- 問20 平田篤胤
- 問21 水戸学
- 問22 北村季吟
- 問23 徳川光圀
- 問24 甲午農民戦争
- 問25 陸奥宗光
- 問26 李鴻章
- 問27 澎湖
- 問28 樺山資紀
- 問29 先進国首脳会議
- 問30 中曾根康弘
- 問31 電電公社
- 問32 ロッキード事件
- 問33 福田赳夫

2

- 問1 頼朝（源頼朝）
問2 義時（北条義時）
問3 龜山
問4 後白河（上皇）
問5 天智天皇の孫である光仁天皇が即位し、天武系から天智系に交代した。
問6 平城上皇は平城旧京に移り、藤原薬子とその兄仲成とはかり復位を試みるが、嵯峨天皇に鎮圧され、上皇は出家・仲成は射殺・薬子は自殺した。
問7 安和の変
問8 持明院（統）
問9 得宗
問10 長崎
問11 （地名）根室 （人名）大黒屋光太夫
問12 商場知行制
問13 蝦夷地すべてを幕府直轄とし、松前奉行を設置した。
問14 咸臨丸
問15 勝海舟
問16 適塾
問17 教育勅語
問18 内村鑑三は教職を追われることになった。
問19 浜口
問20 在留日本人保護を名目とした蒋介石の北伐への干渉
問21 （首相）田中義一 （事件）張作霖爆破事件
問22 済南事件

3

『十六夜日記』

鎌倉時代中期、歌人阿仏尼が実子と継子との所領相論解決のため鎌倉に赴いた際の紀行文。東海道・鎌倉の社会的状況が知られる史料である。

『三教指帰』

讃岐から上京して大学などで学んだ空海が、儒教・仏教・道教の三者における仏教の優位性を論じたもので、これを機に仏教に身を投じた出家宣言の書

『塵劫記』

17世紀前期の数学者・吉田光由の和算書。日常的な例題で割算、掛算から級数、根、体積まで解けるように工夫されている。和算・算盤の普及に貢献した。

『節用集』

室町時代中期に奈良の町人学者である饅頭屋宗二が刊行した国語辞書。日常語句を最初の音で「いろは」順に分けたうえ、言葉の意味別に分類したもの

『庭訓往来』

南北朝期ごろの往来物の代表作。玄恵作伝。月毎の往復12組を中心に構成される。文例と語彙を学ぶことができ、武家の教育にも用いられた。

『貧乏物語』

1917年に出版された河上肇の著作で、人道主義の立場から奢侈の根絶による貧乏廃絶を説いた。その後河上はマルクス主義経済学に傾斜していった。

4

(A)

(出題意図・ねらい)

(解答例)

九世紀末の中国では、唐の衰微が著しくなり、八九四年、遣唐使に任命されていた菅原道真は、遣唐使派遣の中止を提案した。これ以降、遣唐使が派遣されることは二度となく、唐は九〇七年に滅亡した。その後、中国では五代十国の諸王朝が興亡し、九六〇年には宋が成立したが、日本は宋と正式な国交を開くことはなかった。ただし、九州の博多に來航する商人との間で私的な交易は行われていた。陶磁器などの唐物も盛んに日本へ輸入され、貴族たちの間で珍重された。日本から中国へ渡ることは法律で禁じられていたが、聖地への巡礼を願い、商人等の支援を受けて渡海する日本の僧侶もいた。こうした渡海僧として有名な者に奝然や成尋がいる。彼らは中国から仏像や経典などの文物をもたらし、日中間の交流史上、大きな役割を果たした。

(B)

(出題意図)

(解答例)

幕府は、はじめキリスト教を黙認した。しかし、キリスト教の布教がスペイン・ポルトガルの侵略をまねく恐れがあり、1612年直轄領に禁教令を出し、翌年全国に及んだ。こののち幕府や藩は、宣教師や信者を処刑や国外追放とし、迫害を加えた。1614年高山右近ら300人余りをマニラとマカオに追放した。また1622年には長崎で宣教師・信徒ら55名を処刑した(元和の大殉教)。多くの信者は改宗したが、一部の信者は屈せず、殉教するものやひそかに信仰を維持した潜伏キリシタンもいた。

1637年島原藩と天草領（唐津藩）では、飢饉の中できびしい年貢を課し、キリスト教徒を弾圧したため土豪や百姓が島原の乱を起こした。この地は、キリシタン大名の有馬・小西の旧領のため、その牢人・信者が多く、益田(天草四郎)時貞を首領として、原城跡に3万人が立てこもった。幕府は松平信綱を派遣、九州の大名を動員して翌年鎮圧する。こののち、幕府はキリスト教徒を根絶するため、九州北部などで絵踏を強化し、また寺院が檀家であることを証明する寺請制度を設けて宗門改めを実施した。仏教への転宗を強制するなど、キリスト教を監視し続けた。

令和2年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題

歴史〔世界史〕解答例

1

- 問1 リディア
問2 キュロス2世
問3 全国に知事をおき、王の目、王の耳と呼ばれる監察官を巡回させた。
問4 フィリッポス2世
問5 ディアドコイ
問6 ギリシア風の都市が各地に建設されて、ギリシア語が広まった。
問7 パルティア
問8 火を重んじ、世界を善悪二神の闘争ととらえた。
問9 ウァレリアヌス
問10 1206
問11 ナイマン
問12 カラコルム
問13 ワールシュタット
問14 アリクブケ
問15 (1) (1271年) (2) (中都 (燕京)・北京)
問16 色目人
問17 漢人
問18 『西廂記』『琵琶記』
問19 郭守敬
問20 貞享暦
問21 プラノ=カルピニ・ルブルック
問22 モンテ=コルヴィノ
問23 駅伝制 (ジャムチ)
問24 カーリミー商人
問25 泉州
問26 サマルカンド
問27 サファヴィー朝はシーア派を、オスマン朝はスンナ派を奉じた。
問28 タージ=マハル
問29 アフガーニー
問30 レザー=ハーン
問31 ホメイニ
問32 フセイン

2

- 問1 護民官
- 問2 十二表法
- 問3 ホルテンシウス
- 問4 ハギア=ソフィア
- 問5 ボローニャ
- 問6 ナポレオン=ボナパルト
- 問7 安南
- 問8 李朝
- 問9 大理
- 問10 チュノム (チューノム、字喃)
- 問11 黎朝
- 問12 権利の請願
- 問13 人身保護法
- 問14 権利の宣言
- 問15 カトリック教徒解放法
- 問16 武昌
- 問17 興中会
- 問18 袁世凱
- 問19 宣統帝 (溥儀)
- 問20 チョイバルサン

3

(A)

(出題意図・ねらい)

歴史学を専攻しようとする受験生に対し、ある特定の地域・時代に関する歴史的事象につき、指定された語句を用いつつ、大局的な観点から論述させることによって、受験生の歴史に対する理解度と要約力、表現力をためすことを目的とする。

本問は、紀元前2世紀後半の前漢武帝の治世に進められた対外政策とその影響を取り上げることにより、①北方に対峙していた匈奴を挟み撃ちするために西域の大月氏に張騫を把握したこと、②北方や西域だけでなく、朝鮮半島の衛氏朝鮮や南方の南越を滅ぼし、楽浪郡などを設置して直接統治したこと、③度重なる対外戦争の結果、財政難に陥り塩・鉄・酒の専売などの経済統制策を講じたが成功しなかったことなどを論述させ、前漢代における中国を中心とするアジア世界の状況について、正確な理解力と適切な表現力をみることをねらいとした。

(解答例)

漢武帝の治世は、大月氏と同盟して北方の匈奴を攻撃するために西域に張騫を派遣するなど、積極的な対外政策を進めた時代である。西域や北方だけ

でなく朝鮮半島では衛氏朝鮮を滅ぼし、楽浪などの4郡を置き、南方では南越を滅ぼすなど、その領土は大きく拡大したが、度重なる対外戦争は財政難の原因となった。武帝は塩・鉄・酒の専売や均輸・平準などの経済統制策により事態の打開をはかったが成功せず、前漢衰退の遠因となった。

(B)

(出題意図)

第1次世界大戦後、14か条の提唱により国際社会で軍備縮小が希求され、列強も艦隊保有数の制限などで協調していくが、こうした軍縮の中で不利な扱いを受けた新興の列強である日本と、大戦後再軍備を禁じられていたドイツが、不満を抱き、軍縮の動きから離脱していく過程を、論述させる。

(解答例)

1918年アメリカ大統領ウィルソンは十四か条を提唱し、軍備縮小を主張した。戦後は建艦競争が激化したが、22年米英日仏伊はワシントン海軍軍備制限条約で保有できる主力艦総トン数の比率を定めた。また30年には英米日はロンドン軍縮会議で補助艦の保有比率を定めたが、日本に強い不満を残した。ドイツもヴェルサイユ条約で課せられた軍備制限に不満を抱いており、33年には国際連盟を脱退し35年に再軍備宣言を行った。

4

(A)

(出題意図・ねらい)

歴史学を専攻しようとする受験生に対し、ある特定の地域・時代に関する歴史的事象につき、指定された語句を用いつつ、大局的な観点から論述させることによって、受験生の歴史に対する理解度と要約力、表現力をためすことを目的とする。

本問は20世紀前半、第一次世界大戦前後のインド帝国下で展開した民族運動の展開を取り上げることにより、①イギリスの植民地としてのインド帝国の成立と第一次世界大戦中における民族自決の高まり、②大戦後のインド統治法やローラット法による反英運動の弾圧、③ガンディーを中心に展開した非暴力・不服従を理念とする民族運動の展開、④ネルーら急進派によるプールナ＝スワラージ（完全独立）の決議や、ガンディーによる塩の専売を打破するための「塩の行進」などの動きについて論述させ、当該期のインドを取り巻く状況に対する正確な理解力と適切な表現力をみることをねらいとした。

(解答例)

インド人傭兵シパーヒーの大反乱をきっかけにイギリスは1858年にムガル帝国を滅ぼし、東インド会社を解散させ、インドの直接統治に乗り出した。1877年にはイギリスのヴィクトリア女王がインド皇帝に即位することによっ

てインド帝国が成立し、以後1947年のインド共和国とパキスタン共和国の独立まで存続した。インド帝国は、宗教やカースト、地域の違いを利用してインド人同士を対立させる分割統治によって植民地支配を進めたが、第一次世界大戦中、民族自決という国際世論の高まりの中で戦後自治を約束した。しかしながら、大戦後に制定した1919年インド統治法の内容は州行政の一部をインド人に委ねただけで自治とはほど遠いものであり、同時に強圧的なローラット法を施行して反英運動の弾圧を進めた。こうした中、南アフリカにおけるインド人移民への差別撤廃運動を成功におさめて帰国したガンディーは、非暴力・不服従を掲げてあらゆる階級を結集する形で民族運動を展開した。1927年、憲政改革調査委員会にインド人が含まれなかったことを契機に民族運動は激化し、1929年、国民会議派内のネルーら急進派によってプールナ＝スワラージ（完全独立）が決議された。またガンディーもイギリスによる塩の専売を打破するための「塩の行進」を組織するなど第二次非暴力・不服従運動を展開した。こうした動きにもかかわらず1935年インド統治法もやはり完全独立にはほど遠いもので、新法の下で国民会議派が多くの州で政権を獲得したが、第二次世界大戦が始まると、政府は国民会議派を非合法化し、ガンディーを投獄するなど弾圧を進めた。

(B)

(出題意図)

親政時代のルイ14世がとった軍事外交、経済、植民地政策についての基本的な知識を問う。

(解答例)

コルベールを財務総監（財務大臣）として任用し、織物や板ガラスなど各部門に王立マニュファクチュアの設立などをして国内の製造業の活性化につとめた。また、海外貿易の増大や植民地の拡大にも乗り出し、ほとんど活動していなかった東インド会社を1664年に再興したほか、アメリカでは五大湖からメキシコ湾に至るルイジアナ植民地を設立した。また、ヨーロッパにおいては、自然国境説を唱え、対外拡張策を強行し、隣国のネーデルラントに侵入して、オランダ君主と対立し、オランダ君主がイギリス国王ウィリアム三世となって以降もイギリス、オランダと激しく対立した。また、スペイン王カルロス二世の死後、自分の孫の王位継承権を主張し、スペイン継承戦争を戦って、スペインブルボン家を確立した。